

研修名 乳児保育・教育 幼児教育・保育

平成 29 年 12 月 15 日（金）14：15～15：45

講演 『写真でつづる子どもの心』

講師 森の案内人・写真家 小西 貴士 氏

1 講演要旨

映像を通しての言葉を！！ 写真にもしっかりと感情をのせる

① 自由のめがね屋さん

私は生まれた時は選べません。物の見方というのは、めがね。どのめがねが正解か・・・ではない。自由になって、いろいろなめがねをかけてもいい。

命として自然という子どもを見ていきたい。命の世界を愛おしく思わなくちゃ

① 映 お母さんの手をギュッとにぎってはなさない子 見れば見るほどかわいらしい。

① 映 草刈の翌朝 葉に水滴が 優しく背中をさすられたような

① 映 つらら とがった物は美しい。とけていく時はそれにもまして、美しい。

① 映 もう羽がボロボロ よく飛んだもんだ。つかれたね

小さなものたちの中に、私たちが大切に思う気持ちをみいだした

命は受け入れて 受けつがれていく

② 4つのめがね もっともっと自由に見る時間

① 映 鼻の花 人の育ちは人の事でしか語らない。一番の特徴

1のめがね (春色めがね)

のんびり育つ だろんこ・はだし・山林

森からの帰り道、命と命が交わる時、平和があるのです。

人は小さくて、木や石が大きい 人間が小さい。未来へつないでいく
遺伝子はそんな所から始まっていく。いろいろな人をひきつけて、1つの
事を見つづける。

2のめがね (夏色めがね)

生きるや育つはよわさがつきもの。きずついたり、うまくいかなかったり、
弱さやはかなさにもっと敏感でいい。

3 のめがね (秋色めがね)

生きるというものをしっかり

1つ1つがあって、ともに育ち 豊かさ 楽しさの余韻が大切にされると誰かのためにささげてこくなりませんか。人のことが愛しくたまらなくなる。寄り添えば寄り添うほど、静けさ 暗闇 やさしさを育もうと浮かびあう。いつも1つ1つまとめて、出会う事はできない。命の事はいそげない

4 のめがね (冬色めがね)

子どもってなんだろう

育つってなんだろう

命ってなんだろう

もっともっと気楽にいこう そんなカチコチになっていたら、大切なものが・・・

めがねを外して ひと休み

森にはいろんな物がいて 人って面白いなぜ保育するんだろうか。子どもが世界を作り上げていく。ずーっと考えるって面白い。

保育には、濃い所と薄い所があり、保育が毎日展開する事が楽しい。ストーリーの濃い所がカメラがついていく。出来ているストーリーに追いかけていく。淡い時にこそ、「こんな事で大丈夫なの」「ここに大事な物があるんじゃないの」こういう保育をやっていききたいな。命のめがねをみうしなっていた。淡い所にその子の育ちがある。

物語がある写真 目でみえてるものだけで心のポケットをさぐろう

2 感想

どの場面にも、ストーリーを感じた時間でした。日常私たちが作り上げ物には、ストーリーを感じない時が止まってる様な写真に思えました。

小西先生の写真には、動き今にも動きそうな感じがしました。

子どもってなんだろう・・・命として見ることで、少しわかりあえたはずけた様に思えます。ステキな時間ありがとうございました。

(記録 清仁保育園 藤林 加代)